

02 株式会社くればぁ

ユニークな「マフラー型マスク」で、
日常的にマスクを使わない
欧州など新たな市場を開拓

補助金を活用して導入したマシン



さまざまなメッシュ製品を手がけている



開発したマフラー型のマスク。カシミア製マフラーに10層構造の高性能マスクを取り付けた



マフラー型マスクの拡販に意欲を見せる中河原毅社長

data くればぁ

代表者役職名・氏名／代表取締役会長・中河原四郎

取締役社長・中河原毅

設立年月日／平成元年8月1日

住 所／〒440-0081

豊橋市大村町藤田4番1

電 話／0532-51-4151

F A X／0532-51-4177

U R L／http://www.nippon-clever.co.jp

E-Mail／info@nippon-clever.co.jp

資 本 金／1000万円

業 種／メッシュ製品の製造・販売

独自のメッシュフィルター

くればぁは、メッシュ加工をコア技術に樹脂や金属を材料とするさまざまなメッシュフィルターを手がけ、その高い技術力とアイデアを生かした社会に役立つ製品を製造、販売している。

目のサイズが0・01マイクロメートル（マイクロは100万分の1）レベルの極小メッシュによる高性能マスクはフィギュアスケートの羽生結弦選手が愛用したことで知名度を高め、最近では台風や「ゲリラ豪雨」が相次ぐ中、土のう代わりに使う浸水対策用シートも販売を伸ばしている。

くればぁでは以前、海外で高密度なメッシュフィルターが広がっていることに着目。日本でも販売できるようにしようと海外のメッシュフィルターメーカーを回ったという。その後、独自で高密度なメッシュフィルターを企画し、製造に成功した。これをマス

クに採用したところ、狙いは当たり、ヒットした。

マフラー型のマスクを開発

そして、日本以外の国でもマスクを広めようと計画し、マスクの文化がない国に目をつけた。マスクをしない国でも大気汚染などから身を防ぎたいという需要があるのではないかと考え、イタリアへ調査に赴いた。

ヨーロッパは大気汚染が進んでおり、粒子状物質（PM）2・5なども多く、対策をしたい時はマフラーを口元に持ってくる人がほとんどということが分かった。マスクを使わないのは「マスクは医者がするもの」「病弱に見られる」「ファッションのバランスが崩れる」などの理由があった。

そこで、見た目を重視する点を考慮し「マフラー型のマスクを作れば売れるのではないか」と考案。一見するとマフラーのようなユニークなマ

スク「boーbiプロテクトスカーフ」を開発した。

同製品はマフラーの内側に同社が開発した目の大きさが0・1マイクロメートルのメッシュフィルターを10層取り付けている。ファッション性と保湿性が高いカシミア100%のマフラーを採用しているが、厚手で縫製が難しい。同社にはそれまで、厚い布を縫えるマシンがなかったため、「平成27年度補正ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金」で新たな高機能マシン10台を購入、活用した。

100万円の売り上げ達成

同製品はメッシュフィルターの設けられた部分に口元を当てて使用する。メッシュフィルター部分は取り外して洗うことができる。また、マフラー全体もドライクリーニングが可能で、10年ほど使用できるという。

平成30年2月から楽天市場などイ

ンターネット販売や、イタリアで著名なデザイナーの佐藤オオキ氏の紹介もありヨーロッパ向けに販売を始めた。4万7800円（消費税込み）と決して安価ではないが、反響があり、1カ月で100万円の売り上げになった。生産が追いつかず、販売を停止したほどだった。

同製品は海外の中ではイタリアでもっとも売れたという。それまで、同社はヨーロッパ市場への商品の販売実績はゼロだったが、マフラー型マスクというこれまでにないユニークな製品で市場開拓を果たした。

世界中でマスクを広める

同社では今後も欧州市場へマフラー型マスクを売り込む。11月に販売を再開し、平成31年4月ころまでに1000万円の売り上げを目指す。同製品は手作業が多いため、大量生産は難しいが、中河原毅社長は

「本当に必要な人を買ってもらえれば」と話す。

また、欧州での実績を踏まえ、マフラー型のマスクが受け入れられることが分かったので、これから「マスクをする文化がない米国や、その他の寒い国へもマフラー型マスクを販売していきたい」（中河原社長）と世界中でマスクを広めようと強い意欲を見せている。



丁寧に手作業で縫製する